

# 経営比較分析表

岐阜県 恵那市

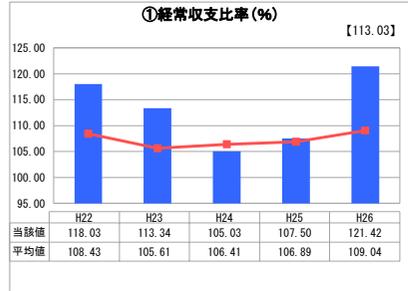
業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法適用	水道事業	末端給水事業	A5
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	84.74	57.69	3,656

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
53,052	504.24	105.21
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
30,346	57.74	525.56

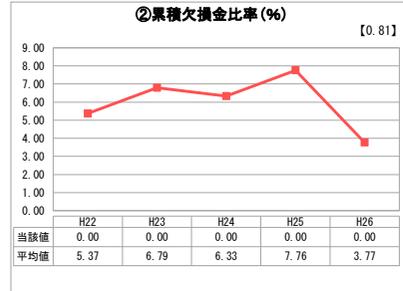
**グラフ凡例**

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成26年度全国平均

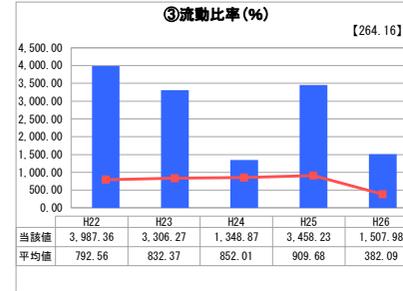
## 1. 経営の健全性・効率性



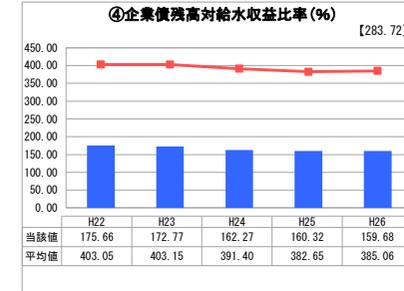
「経常損益」



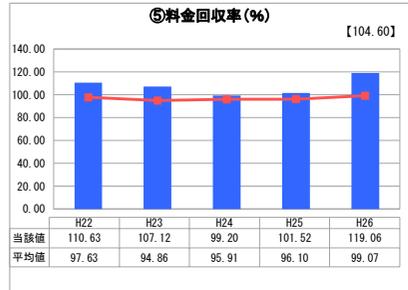
「累積欠損」



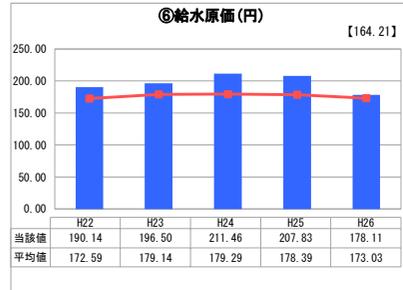
「支払能力」



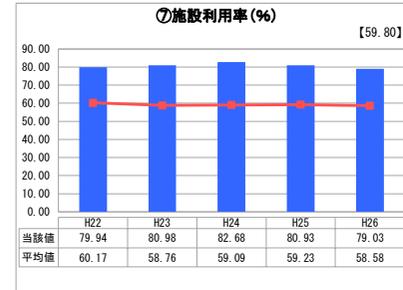
「債務残高」



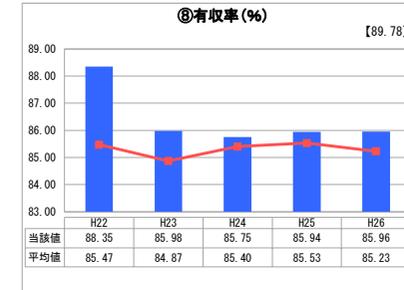
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

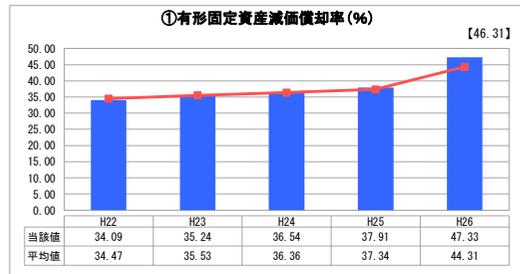


「施設の効率性」



「供給した配水量の効率性」

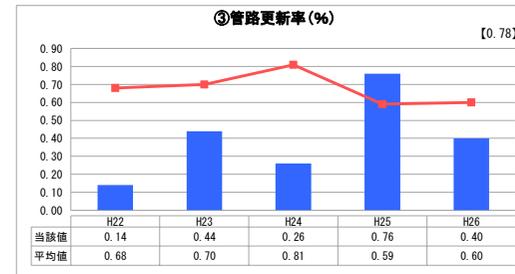
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

- ①経常収支比率(%)  
100%以上で、類似団体平均を12.38上回り、H24年度から毎年数値が向上している。なお、H26に数値が改善しているのは会計制度改正の影響である。
- ②累積欠損比率(%)  
累積欠損金は0である。
- ③流動比率(%)  
100%以上で、類似団体平均を大幅に上回る。
- ④企業債務高対給水収益比率(%)  
類似団体平均の半分以下に収まっている。
- ⑤料金回収率(%)  
100%以上で、過去5年間に於いても類似団体平均を上回る。なお、H26に数値が改善しているのは会計制度改正の影響である。
- ⑥給水原価(円)  
現在、類似団体平均と同水準であるが、H24年度から下落傾向である。
- ⑦施設利用率(%)  
毎年80%付近を推移し、類似団体平均を大幅に上回る。
- ⑧有収率(%)  
H23年度から86%付近を推移し、類似団体平均と同水準である。引き続き漏水調査と老朽管更新事業を進めていき、改善を図る。

### 2. 老朽化の状況について

- ①有形固定資産減価償却率(%)  
H22年度から上昇傾向にあり、類似団体平均と同水準である。
- ②管路経年化率(%)  
数値が0であり、法定耐用年数を超えた管路延長は存在しない。
- ③管路更新率(%)  
H22年度から毎年ばらつきがあるが、類似団体平均をおおむね下回っている。H22年度からの平均値は0.4であり、同じベースの場合は全ての施設を更新するのに250年かかることとなる。

以上から、法定耐用年数を経過した管路はないものの、老朽管更新事業をさらに進めていき、更新のペースを上げていく必要がある。

### 全体総括

過去5年の決算状況を見ても、全国的に見ても経営状況は非常に良い状態であるが、管路の更新についてはペースを上げていく必要がある。今後の施設更新の財源となる内部留保資金は現状十分にある。また、今後10年間の財政計画においても、給水収益は減少していく見込みであるが、当期利益は十分確保していることを見込んでいる。以上のことから、水道事業については、経営の健全性、効率性は比較的高く問題ないと思われるが、簡易水道と統合後については、毎年の減価償却費の大幅な増加により収益状況、財務状況が現状よりも悪化することが見込まれるため、水道料金の設定についても見直す必要が出てくる見込みである。

※ 平成22年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。